



福岡藩3代藩主黒田光之でござる。冬の特別展「名刀「博多藤四郎」の輝き」は2月14日(日)までの開催じゃ!残りわずか・・・まことに名残惜しいの。今回の情報誌では、第3弾となる「見どころ」の紹介でござる。しっかりとご覧あれ!

「見どころ」

嶋原陣図御屏風 (戦闘図)

朝倉市指定文化財



宮本武蔵

この御屏風は、秋月藩第10代藩主黒田長元が島原・天草一揆の鎮圧200年を記念し、初代藩主の長興の功績を世に知らしめるために作らせたものである。



天保8(1837)年 斎藤秋圃画 (朝倉市秋月博物館蔵)

寛永15(1638)年2月27~28日の原城総攻撃を描いた「戦闘図」である。(ほかに「出陣図」がある)内容は「嶋原一揆談話」などの記録に基づいて、合戦図のなかでも傑作として知られておるのじゃ!

なぜ、説明しているかというとなぜ、拙者も出陣したからなのじゃ!

左の書状は、原城落城後、日向国延岡藩主有馬直純の小姓衆に宛てたものである。

内容はというと「原城に立て籠もる一揆勢が投げる石に当たり脛を痛めた」というものじゃ。いやいや、まことに痛かった。



「おすすめの見方」

本当に吊るされている!残酷だな~

ここまで忠実に描かれるんだ。

ポイント

- ①DVD(解説)を見たら、すぐに自線を御屏風へ。
- ②またDVD(次の場面解説)を見たら、すぐに自線を御屏風へ!これを繰り返す。

塀の外には、裏切り者と思われる人物が吊るされています。



DVD(場面ごとの解説を楽しめます)

嶋原陣図御屏風は、中学校の歴史の教科書に載っているほど有名じゃ!是非、本物のすごさを肌で感じておくれ。

【学芸員のよもやまばなし】

小笠原忠真が小倉15万石の大大名となった理由とは?

慶長20年(1615)の大坂夏の陣は、徳川家康が豊臣秀吉亡き後の豊臣家を滅ぼし、名実ともに天下統一を果たした戦いです。この戦いで徳川方として活躍したのが、小倉藩小笠原家初代の忠真と、その父・秀政、兄・忠脩でした。秀政と忠脩はこの戦いで戦死し、忠真も重傷を負いました。信濃国松本8万石(長野県松本市)の大名である秀政とその跡継ぎである忠脩が二人揃って戦死するというのは前代未聞のことでした。

さらに重要なのは、秀政は家康の孫娘の夫であったことです。秀政夫人の父は徳川家康の長男・信康で、母は織田信長の長女・徳姫です。つまり、忠脩・忠真兄弟は徳川家康と織田信長のひ孫というサラブレッドでした。では、小笠原父子はどのようにして戦死してしまったのでしょうか。

まず、秀政ですが、彼は戦死する前日、慶長20年5月6日の戦いで、豊臣方の軍勢を取り逃がしてしまいました。ただ、これは秀政の失策というより、將軍徳川秀忠から派遣されていた目付(監察官)が攻撃を許さなかったことによります。けれども、秀政はその汚名を晴らすには翌日の戦いで討ち死にするしかないと考えたようです。

つぎに、忠脩ですが、彼は本来この戦いに出陣することを許されておらず、松本城の留守を命じられていました。けれども、忠脩は松本城を抜け出して、伏見城(京都市伏見区)にいる將軍秀忠から参戦許可を得ようとしますが、秀忠に会うことができず、二条城(京都市中京区)にいた大御所家康に嘆願し、どうか参戦を許されました。ですが、將軍の命令に背いてまで出陣したからには、戦いで討ち死にするしかないと考えたようです。

以上のような経緯があったため、5月7日の天王寺口の戦いで秀政・忠脩率いる小笠原勢はがむしやらに突撃し、豊臣方の竹田栄翁の軍勢を打ち破りましたが、竹田勢に続く毛利勝永(旧小倉城主毛利勝信の長男)勢の猛攻を受け、秀政(47歳)・忠脩(22歳)父子は戦死しました。18歳の忠真は父と兄が戦死したことを知らず、手柄を立てようと深入りし、瀕死の重傷を負いましたが、一命を取り留めました。大坂夏の陣終結後、二条城での宴席で家康は、賤ヶ岳七本槍の生き残り伊予国松山(愛媛県)の大名である加藤嘉明らに忠真の傷を見せ、「この者が我が鬼孫である」と自慢したといわれます。

父と兄の戦死、忠真自身の負傷も合わせて、小笠原父子の働きは幕府に認められ、小笠原家を継いだ忠真は、松本8万石から播磨国明石10万石(兵庫県明石市)に加増移封されました。そして寛永9年(1632)、忠真は、譜代大名のなかでは彦根藩井伊家(滋賀県・30万石)に次いで第2位の規模の豊前国小倉15万石の大大名となりました。小倉藩小笠原家の誕生は大坂夏の陣における小笠原父子の命をかけた働きによるものでした。

歴史課学芸員 守友 隆



小倉藩初代藩主 小笠原忠真

今回の展覧会は、
序幕 天下統一と「戦国」の終わり
第1幕 戦国次世代の挑戦
第2幕 「博多藤四郎」と仲間たち
終幕 泰平の世へー武士と武具の行方ー
の4幕構成となっております。

展覧会の幕明けとして信長・秀吉・家康の天下統一、また戦国最後の戦いである大坂夏の陣において北九州の大名がどのように関



「大坂夏の陣屏風図(右隻)」
(原本は国指定重要文化財・大阪城天守閣蔵)

わり、戦ったかを読み解くために「大坂夏の陣屏風図」(複製パネル)を入口に展示しておるのじゃ!守友学芸員のよもやまばなしをしっかりと読んで、わしら親子の活躍する姿を屏風図から見つけておくれ!小笠原家の家紋「三階菱紋」が自印じゃ~。